

校内研修計画

甲州市立塩山北小学校

1 学校課題

本校では、平成23年度から2年間、山梨県金融広報委員会より、「金銭教育研究校」を委嘱され、キャリア教育の一環として金銭教育の研究と実践に取り組んできた。「金銭教育」とは「ものやお金を大切にすることを通して、お金や労働の価値を知り、感謝と自立の心を育てることによって、人間形成の土台作りを目指す教育」である。

その結果、一人一人が自分の役割を意識し、互いの役割や責任、個性を認め合うことができる学習や集団活動を積み重ねることで、子どもたちは自分や集団の役割に意欲的に取り組むようになり、また、集団としての力を高めるなど、大きな成果を上げることができた。

学校生活に関しても、ほとんどの子どもが楽しいと感じており、学習に対しても意欲的に取り組んでいる。しかし、全国学力・学習状況調査の結果や県学力把握調査からは、読解力、特に論理的な文章や説明文の読解、段落相互の関係の理解、日常的な事象について筋道を立てて考え、数学的に表現することなどに課題が見られた。

2 研究主題

「生き生きと学びあい、心豊かに生きる子どもの育成」

～言語活動の充実を意識した授業改善を通して～

3 主題設定の理由

(1) 社会的な課題から

今回の学習指導要領において、改善の大きな柱として「言語活動の充実」が明確に示された。小学校学習指導要領総則の「教育課程編成の一般方針」において、「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力をはぐくむとともに、主体的に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、児童の発達段階を考慮して、児童の言語活動を充実するとともに、家庭と連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。」と示されている。また、「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」においても、「各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること」と示されていることから、各教科において言語活動を充実させることが不可欠であると考えられる。

(2) 子どもの実態から

本校の子どもたちは、明るく活動的で、学習に対しても、まじめに取り組むことができる。「休み時間は、友だちと元気よく遊び、授業時間に入るとけじめをつけて集中して学習する」という生活スタイルが根づいてきている。縦割り集団の活動や遊びが日常化し、上級生が下級生の面倒を見たり、異学年の子どもで仲良く活動したりする姿もよく見られる。学習に対する関心も高いが、授業中の発言に関しては、学年が上がるごとに消極的な面も見られる。自分の考えに自信がもてなかったり、みんなの前で説明することに苦手意識をもち、抵抗を感じている子どもも少なくない。読書に関しては、学級や学年間、個人で読書量に差が認められる。

このような実態の中、各教科において、言語活動の充実を意識した取り組みを進めることにより、思考力・判断力・表現力等の育成だけでなく、諦めない心や目的を達成した喜び、他者との交流を通じた創造の喜びなどにつなげることができると考える。

(3) これまでの研究から

昨年度は、○キャリア教育の推進○学習環境の構造化○授業における言語活動の重視という3つの柱で研究を進めた。子どもたちのキャリア発達を促すために、子どもたちが主体的に学ぶことが大切であることから、学びやすい学習環境を整え、互いに学び合うことができる授業展開を工夫した。

また、甲州市では、「確かな学力」育成プロジェクトを立ち上げ、「授業づくり・授業改善」、「学級づくり・集団づくり」「保護者・地域住民との連携」に視点をあてながら、市全体で具体的な取り組みを進めてきた。

今年度は、その成果と課題をふまえ、言語活動の充実をサブテーマとして掲げ、思考力、判断力、表現力等の育成を図りながら、生き生きと学び合い、心豊かに生きる子どもの育成に向け、研究を進めていくこととする。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

- 各教科の特性を生かした「言語活動の充実」のための理論研究
- QUの実施（5月・10月）と結果分析、取り組み内容の検討
- 授業案の作成、検討及び授業実施
- 読書活動の推進

(2) 研究の方法

- 講師を招聘しての学習会
- 授業研究会（2回）
- 一人一実践の取り組み

5 年間研修計画

研究主任 鈴木百合子

| 回 | 研究 | 担当者 | 形態 | 時期 | T・C要請 |
|----|---------------------------|------------|--------|--------|-------|
| 1 | 昨年度研究について 本年度研究の方向性と概要 | 研究主任 | 全体会 | 4月10日 | |
| 2 | 本年度校内研究の計画と研究の組織づくり | 研究主任 | 全体会 | 4月17日 | |
| 3 | 部会研究の方向・授業内容について | ブロック長 | 部会 | 5月1日 | |
| 4 | 学習会 | 研究主任 | 全体会 | 5月29日 | ○ |
| 5 | 部会研究 | ブロック長 | 部会 | 6月13日 | |
| 6 | 部会研究 授業案づくり | ブロック長 | 部会 | 6月19日 | |
| 7 | 部会研究 授業案づくり NRT分析 | ブロック長 | 部会 | 6月26日 | |
| 8 | Q-Uの結果分析・今後の取り組み | 研究主任 | 全体会 | 7月10日 | |
| 9 | 特別支援教育研修会・部会研究 | 特教コーディネーター | 全体会・部会 | 8月21日 | |
| 10 | 教育課程環流報告会 | 研究主任 | 全体会 | 8月28日 | |
| 11 | 部会研究 授業案づくり | ブロック長 | 部会 | 9月4日 | |
| 12 | 授業案検討会Ⅰ | ブロック長 | 全体会 | 9月11日 | |
| 13 | 授業実践提案Ⅰ | 授業者 | 全体会 | 10月16日 | ○ |
| 14 | 授業案検討Ⅱ | ブロック長 | 全体会 | 10月23日 | |
| 15 | 授業実践提案Ⅱ | 授業者 | 全体会 | 11月6日 | ○ |
| 16 | Q-Uの結果分析 | 研究主任 | 全体会 | 12月11日 | |
| 17 | 部会研究のまとめ | ブロック長 | 部会 | 1月29日 | |
| 18 | 本年度研究のまとめ・来年度へ向けて | 研究主任 | 全体会 | 2月19日 | |
| 19 | 研究紀要作成 | 研究主任 | 全体会 | 2月26日 | |
| 20 | 研究紀要作成 | 研究主任 | 全体会 | 3月5日 | |

